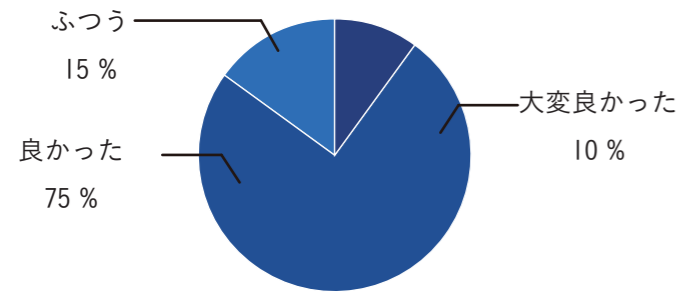


アンケート

満足度



第1回目・2回目同様、参加者の多くが「大変良かった」または「良かった」と回答いただきました。互いがもつ人脈を出しやすくするツールや、意見交換しやすい雰囲気であったとの声がありました。

ワークショップで印象に残ったこと

健康に欠かすことのできない食が遠かったこと。食は親から子へ伝えられていくもの。大切な子どもの未来のために親に健康な食生活を考えて欲しいと思った。／町民が町民のことをあまり知らないことにビックリしました。／「預ける」フェーズではなく、子どもが自主的に遊びに行く環境づくりが課題。／人脈を一通り出してから問題解決に取り組むというのはとても重要な方法だと知りました。

総合計画基本構想について感じたこと

町民の意見を取り入れられるように参加型のワークショップがあるのは本当によいこと。／新しく智頭らしさを大切にしたい、他にはないオリジナリティが生まれることを期待しています。／町民一人ひとりの人生とつながる総合計画が形になるのは楽しみだと思った。／構想案の中から1つでも実現できてほしい。

その他

町民がもっとつながれば可能性が広がると思いました。／意識のある人たちからまず動き出して楽しい場作りをしていき、小さいことからやっていく。／あとはDo it！／次回はサンドイッチでも食べながらやりましょう！

総合計画お披露目会

2017年

3月28日(火)

時間: 19時ごろを予定

場所: 未定

ゲスト: 山崎亮 (studio-L代表・コミュニティデザイナー)

第7次智頭町総合計画は、智頭町で活躍する個人、活動団体、企業、自治体など約200名に対するヒアリング調査からスタートし、プロジェクトのキックオフ講演会・ワークショップ、集落アンケート、総合計画策定ワークショップなど、智頭町で暮らすさまざまな方々に参加いただき、町民のみなさんと共に策定をすすめてきました。こうしてまとめた総合計画のお披露目会を開催します。



山崎亮

studio-L代表
東北芸術工科大学
コミュニティデザイン学科教授

地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、建築やランドスケープデザイン、市民参加型のパークマネジメントなどに関する業務が多い。



studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。http://www.studio-l.org

〈問合せ先〉智頭町企画課

[住所] 〒689-1402 智頭町智頭2072-1 [電話] 0858-75-4112

わたしの智頭くらしを考える 山・ひと・暮らしラボ

智頭町総合計画策定プロジェクト
第3回智頭暮らしワークショップ

2016.12.8 THU

19:00 - 21:30

智頭町総合センター 大会議室

参加者35名

第3回「未来の暮らしを良くするアイデアを考えよう！」

プログラム

- ・はじめに
- ・第2回ワークショップのふりかえり
- ・第7次総合計画基本構想案について
- ・ブレイクタイム(六次の隔たり)
- ・ワーク(資源マップをつくろう)
- ・発表/共有

平成29年度から施行される今後10年のまちの指針となる第7次智頭町総合計画を住民のみなさんと一緒に策定していくプロジェクトがスタートしました。全3回のワークショップのうち、最終回となる第3回目は「未来の暮らしを良くするアイデアを考えよう！」をテーマに、自分の身の回りにいる人たちがもつ資源(スキルや道具、空間など)を出し合いました。そして集まった人たちをつなげることでどんな動きができそうかを考えました。

第7次総合計画基本構想について

一人ひとりの人生が育むまちの未来

智頭町では「日本1 / 0村おこし運動」や「百人委員会」など住民主体の取り組みが進められてきました。第7次総合計画では、これまで培ってきたものを活かし、町民一人ひとりが連携しあいながら、みんなで共通のまちのビジョンを描くことを大きなテーマとして掲げています。そのための取り組みとして、町の事業を0歳から100歳まで、どの年代に関係するか町民のライフイベントに合わせて整理し、それにより導き出した5つの視点を中心に計画をまとめています。町民の暮らしと町の取り組みが密接にかかわっていること、そして、「町民一人ひとりの「人生」が「まちの未来」を育む」という考え方を表しています。

基本構想のポイント

- ① 町民一人ひとりの人生に着目
- ② これからの智頭を支える新しい「つながり」

ブレイクタイム（六次の隔たり）

紹介を介せば誰とでもつながることができる



最大6人の紹介を介することで目的とする人とつながることができるといわれています。私たちは平均して、一人あたり44人のつながりがあり、44を6回乗算すると約72億、世界の総人口約73億人とほとんど同じです。この大きいようで小さなつながりを体感するために、参加者一人ひとりに架空の作品の役者（芸能人やキャラクター）になってもらい、ものまねをしながら、同じ作品で共演した仲間を、紹介を介しながら探すゲームをしました。自分だけでは直接つながることができなくても、知り合いを介せばつながることを体感できました。

ワーク（資源マップをつくろう）



第2回智頭暮らしワークショップでは、智頭町でどんな暮らしがしたいのか、それぞれの理想の暮らし方を実現するために必要なことを、町民のライフステージにあわせて町の事業を整理し導き出した、「健康」「家族」「学び」「仕事」「仲間づくり」の5つ視点で話し合いました。最終回となる第3回智頭暮らしワークショップでは、未来の暮らしをよくするアイデアとして、これからの智頭町を支える新しい「つながり」について考えていきました。まず、第2回ワークショップの話し合いの中から出てきた取り組みアイデアを実現するために、どのような資源（人材）が自分の周りにあるかを「私の資源マップ」をつくって整理しました。それを5つの視点に分かれたグループで共有し、ディスカッションしながら「地域の資源マップ」にまとめ、町内外での人材のつながりについて話し合いました。

健康 健康に意識を向けた集いの場をつくるなら
地域の食材や料理に目を向ける
 町外に目を向けるだけでなく、自分たちが暮らすまちに対して意識を向けられるようにと話しました。いまの子どもの多くは、地域に受け継がれる伝統的な食を知らないように感じます。健康に暮らすことに関して大切な「食」を、親がしっかりと子どもたちに伝え、また学校教育において食育としてやっていく必要があるのではないかと思います。親と学校が連携して健康を育むことが大切なのではないでしょうか。

家族 子どもを気軽に預けあえる環境づくりをするなら
子どもたちだけでも気軽に集まれる関係を
 子育て世代の親同士の関係づくりは偏りなくできている印象があります。ただし、子どもたちだけで集まるとなると課題が見られます。例えば、廃校舎を開放したり、森のようちえんでプレイパークを実施するなどして、子どもたちが集まりやすい空間をつくる取り組みも大事なのではないかと思えます。また、専業主婦であっても気軽に預け合える関係づくりも大事だという意見もありました。

学び 町民が先生になって学び合う場づくりをするなら
町民が持つスキルを把握する
 テーブル内で出た人のつながりの7割が町外の人でした。同じようなスキルを持っている人は町内にもおり、普段から意識してお互いをもつスキルや資源を把握しておかないといけないと思えました。町内にも優れたスキルを持った人はいるので、町内外に強いつながりや情報発信力を持った人を介して発信していくことも、これからの関係づくりにおいて大事にしていかなければいけないと話しました。

仕事 スキルと出会いが得られる仕組みをつくるなら
広いスキルを活かし持続可能な取り組みを
 町内の人は数々のスキルを持っておりある程度偏りはないように感じました。アートについてはもう少し力を入れることができるといった意見もありました。また、海外の人とのつながりもいくつかできていたことから、もっと広い範囲でスキルを活かし合い発信することが大切だと思います。経営のスキルを持った人をうまく連携することで、持続可能な取り組みができる可能性が見えました。

仲間 町民みんなが集える食事会をするなら
興味を持ち集まりたくなる場をつくる
 町内で十分な食材や空間、道具が揃うことがわかりました。後はどのような食事会をするかがキーになります。今回のようなワークショップや地域の行事など参加する人はいつも限られています。集いの場に普段訪れないような人、意識が向きにくい人も集まれるような、楽しめる場が求められていると感じます。人の流れをうまくつくり、資金や場所の提供が円滑に回るようになればと思います。



- 意見抜粋**
- <健康に意識を向けた集いの場をつくるなら>
 - 地域や家族で受け継がれている郷土料理を知らない
 - 親の教育学習が必要
 - <子どもを気軽に預けあえる環境づくりをするなら>
 - 子どもがいない人たちはつながりに困るのではないか
 - 子どもの人柄を問わない預けやすい仕組みとは何か
 - <町民が先生になって学び合う場づくりをするなら>
 - ほとんどの人が町外に目を向けてしまっている
 - 農林業、芸術文化、ものづくり、健康など多様なスキルがある
 - <スキルと出会いが得られる仕組みをつくるなら>
 - スキルややってみたい思いはあるが場所がない
 - 経営能力に優れた人材へのつながりが町内外にある
 - <町民みんなが集える食事会をするなら>
 - カフェやパンなどすでにお店が充実しているので連携を
 - やるとなればものは揃っているので集まりやすいテーマ設定を

